

実践報告

看図アプローチを活用した 基礎看護技術における事例展開演習の試み

高橋梢子¹⁾・鈿 貴裕¹⁾・安部史子¹⁾

TAKAHASHI Shoko TATARA Takahiro ABE Fumiko

キーワード：看図アプローチ・基礎看護技術・事例展開演習

概要

看護技術は患者の状態に合わせて提供される。患者の状態は一人一人異なり、全く同じ方法で提供されることはない。看護師は患者の様子から、その援助技術をどのようにカスタマイズするのか、よく考える必要がある。患者の様子はカルテだけでなく、患者およびベッドサイドから分かることも多い。そこで、基礎看護技術の授業において、看図アプローチを活用し、ある状態の患者の写真を学生に見せ、写真の情報から患者に適した援助技術方法を考え実践する事例展開演習を試みた。本稿ではこの演習の実践を報告する。

1. 背景

看護技術は「nursing art」と呼ばれる。日本看護科学学会が提供する看護学を構成する重要な用語集によれば、「看護技術は、個別性をもった人間対人間の関わりの中で用いられるものであり、そのときの状況（context）の中で創造的に提供される」と説明されている（日本看護科学学会看護学学術用語検討委員会）。学生は基本的な看護技術を教科書で学び、学校の実習室で実践してみ、実習で受け持ち患者に展開していく。受け持ち患者は多様で、例えば同じ清拭をするのでも、年齢、性別、自立性、疾患、痛みなどの症状、患者と自分との関係性、その場にある物品などを考慮し、学校で勉強したことをカスタマイズしなくてはならない。教科書と同じ方法で実施できることはほぼなく、学生は必要な情報をカルテから収集するだけでなく、患者の様子から状況を読み解

き、提供する看護技術の方法を思案し判断する力を身につけなくてはならない。

これまで、清潔、食事、排泄、活動などの生活援助に関する基礎看護技術の事例課題演習において、患者の様子は文字情報として学生に提示されてきた。しかし、文字情報はそのまま判断材料となり、学生の読み解く力を涵養することができない。そこで今回、生活援助に必要な患者を写真で学生に提示し、何の技術がどのようにカスタマイズされる必要があるのかを考え、調べ学習を通し、実践する方法「看図アプローチ」を試みた。

看図アプローチとは、写真や絵といったビジュアルテキストを深く読み解き、その理解を発信するプロセスを含む「授業づくり」の手法である（鹿内 2023）。教師は学習者に対し、単にビジュアルテキストを「見る」のではなく、「読み解く」体験を提供することを目指す。この「読み解く」

1) 島根県立大学看護栄養学部看護学科

プロセスには、以下の三つの活動が含まれる。まず、①変換：写真に写っている要素を言語化すること。次に、②要素関連づけ：写真に写っている諸要素や、自分が既有知識として持っている諸要素などを関連づけること。そして③外挿：写真に写っていない事柄を推測することである。これらの活動を引き出すために、教師は効果的な発問を行うことが求められる（鹿内 2015）。

II. 授業の概要

II-1 授業科目・授業者・学習者等

本稿で紹介する事例展開演習は、2023年度にA大学看護学科で1年次秋学期（10～2月）に開講された「生活援助方法論Ⅱ」の授業で行ったものである。生活援助方法論Ⅱは全30回（90分/回）、2単位である。本演習は、第24回、第27～30回の計5コマで実施された。学生は82名であった。

II-2 演習の目標

本演習の目標は、「①写真の患者さんのニーズを想像できる②個性のある清潔ケアの計画・実施・評価ができる③ケア記録を書くことができる」の3つである。ケア記録とは、看護技術を提供するにあたり、目的・計画・結果・評価・実践の振り返りを記録する用紙である。この事例展開演習までに、学生は清潔援助として、臥床患者の寝衣交換、臥床患者の床上洗髪、臥床患者のオムツを使用した陰部洗浄の演習をそれぞれ実施している。

III. 演習の実際

まず、1コマ目にクラス全体で写真を読み解く作業を行った。写真を読み解いた結果を用い、ケア計画を立てる個人作業の後、2・3コマ目を使って、グループで計画を合わせてケアを実践し、4・5コマ目でクラス全体の発表会を行った。

III-1 写真の提示と読み解くための問い

1コマ目に3つの場面（場面A・B・C）における患者の状況を写した写真を提示し、読み解いてもらった。実際には、各場面において「訪室す

ると、患者さんは写真のような状態でした」と示した後、写真を見せ、3つの問いを投げかけた。写真は、スライドで投影すると同時に、学生が細部まで見えるようにMicrosoft Teamsの授業チームの投稿に写真をアップロードし、学生にはスマートフォンでも見てもらった。写真を読み解くための問いは次の通りである。

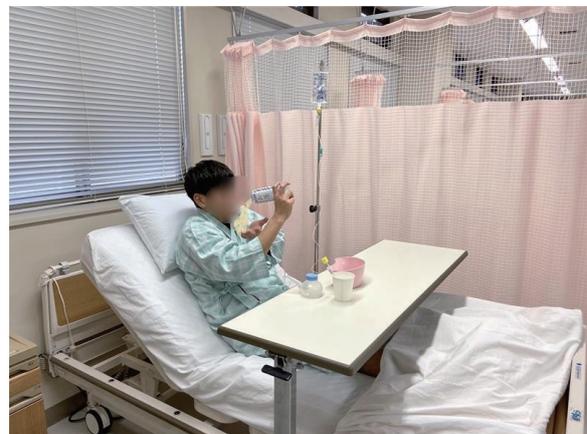
問1. この写真にはどんな『もの』が写っていますか？めざせ10個！（変換）

問2. 写真から患者さんのADLはどのくらいでしょうか？また、そう考えた根拠は？（要素関連づけ）

問3. この患者さんに必要な清潔ケアは何？（外挿）

回答は、Teamsの投稿にスマートフォンを用い、各自で入力してもらった。この回答は、学生全員がその場で共有できるようになっている。

<写真1枚目：場面A>



場面A：出雲さん（一部モザイク処理）

場面Aは、お茶をこぼして寝衣を濡らしてしまったため寝衣交換が必要な患者である。患者はガウンタイプの寝衣を着ていること、オーバーテーブルに吸い飲み、ガーグルベイスン、スポンジブラシがあることから、自分で洗面台に歩いて行くことが難しく、ベッド上で過ごしている時間が多いことが分かる。また、ベッドをギャッチアップしていることから、自力での座位保持は難しく、

介助量が多い患者であることが想像できる。また、左手に点滴をしているので、既に学習している臥床患者の寝衣交換の応用技術が必要である。

<写真 2 枚目：場面 B >



場面 B：川跡さん（一部モザイク処理）

場面 B は、頭を掻いており、頭が痒いことが考えられ、洗髪が必要な患者である。オーバーテーブルにガーグルベイスン、吸い飲みがあることから、洗面台に自分で歩いて行くことが難しいことが想像できる。また、ベッドの端で足を下ろして座っており、安定した座位が取れること、ベッドサイドに車椅子があり、車椅子での移動が可能であることが想像され、洗髪台での洗髪が適切と考えられる。洗髪台での洗髪は講義で紹介した程度のため、調べ学習が必要である。

<写真 3 枚目：場面 C >



場面 C：鳶巣さん

場面 C は、ポータブルトイレに座っているが便失禁後であり、陰部の清潔ケアが必要な患者である。オムツ内の便は泥状であるため、臀部が汚染されていることが想像され、陰部ケアは拭くだけでなく、洗浄も必要である。オーバーテーブルにガーグルベイスンがあることから、洗面台まで一人で歩くのは難しく、介助バー付きベッド柵、ポータブルトイレを使用していることから、支えがあれば立位が取れることが分かる。また、防水シート（水色のシート）、オムツを使用していることから、トイレに間に合わないことがあることが分かる。ポータブルトイレ上で陰部・臀部をきれいに洗浄してから着衣し、ベッドに戻る必要がある。

場面 A～C での各問いに対する学生の全回答は表 1 の通りであった。

表 1 各場面における問いに対する学生の回答

【場面 A】
問 1. この写真にはどんな「もの」が写っていますか？（めざせ 10 個）
「ベッド」「紙コップ」「点滴」「点滴のポール」「スポンジブラシ」「カーテン」「吸い飲み」「オーバーテーブル」「ベイスン」「お茶こぼれとる（こぼれている）」「枕」「ナースコール」「布団」「寝巻（寝衣）」「床頭台」「迫真の演技」
問 2. 写真から患者さんの ADL はどのくらいでしょうか？また、そう考えた根拠は？
「お茶をこぼしているのでペットボトルを口に持っていく筋力がない」
「スポンジブラシや吸い飲みがあるから、歩いて歯磨きをしに行くことができない」
「口元から離れたところでお茶をこぼしているため距離感がうまくつかめていない」

問3. この患者さんに必要な清潔ケアは何？
「寝衣交換」「口腔ケア」「清拭」「シーツ交換」
【場面 B】
問1. この写真にはどんな「もの」が写っていますか？（めざせ 10 個）
「車椅子」「ティッシュ」「吸い飲み」「二部式寝衣」「ガーグルベイスン」「布団」「床頭台」「マスク」「スリッパ」「腕時計」「オーバーテーブル」「(ギヤッチアップされていない) ベッド」「靴下」「頭をかいている川跡さん」「おしゃれな掛毛布」「なんか困ってそうな患者さん」「コンセント」「陽の光」「ナースコール」
問2. 写真から患者さんの ADL はどのくらいでしょうか？また、そう考えた根拠は？
「車椅子があるため 1 人で歩くことができない」 「ベッドから足を降ろして座っているので座位でのバランスは取れる」 「自分で体を起こすことができる」
問3. この患者さんに必要な清潔ケアは何？
「洗髪」
【場面 C】
問1. この写真にはどんな「もの」が写っていますか？（めざせ 10 個）
「簡易トイレ」「ポータブルトイレ」「電動歯ブラシ」「歯ブラシ」「おむつ」「使用済みおむつ」「防水シート」「二部式寝衣」「トイレットペーパー」「コップ」「手拭き」「くしゃくしゃにしたトイレットペーパー」「タオル」「便」「汚物」「うんち」「手すりにかかっているタオル」「カーテン」「ベッドの手すり」「ベッド柵」「ナースコール」「ストマ」「ストマの取り付け部分」
問2. 写真から患者さんの ADL はどのくらいでしょうか？また、そう考えた根拠は？
「防水シートやおむつを使用しているため毎回トイレが成功するとは限らない」 「ベッド柵を使用してポータブルトイレまで移動できる」 「トイレまで歩いていくことができない」
問3. この患者さんに必要な清潔ケアは何？
「おむつ交換」「陰部洗浄」

III-2 ケア記録の作成とグループでの実践

ここまでの作業はクラス全体で行った。その後、割り振られた担当場面について、各自でケア記録の目的・計画を記載した。1 週間後の授業の残り時間 30 分程度を用い、同じ場面を担当する者同士で組まれたグループで集まり、各自で立てた計画を持ち寄り、1 つの計画を作成するワークを行った。グループは 6～7 名で編成し、1 場面あたり 4 グループが担当した。このグループワー

クは課題提示から 1 週間後に行った。課題提示から 2 週間後の 2・3 コマ目では、グループごとにケア計画に基づいて実践・評価を行い、発表資料を作成した。実践は動画に撮影し、4・5 コマ目の授業でケア記録の内容も含めて実践内容を発表した。発表日は生活援助方法論Ⅱの授業最終日である。

ケア記録	
グループ:	学籍番号:
氏名:	
場面: A B C (○をつける)	援助内容:
1. 患者さんの説明と援助の目的	
2. 計画 (必要物品、手順、留意点) ※教科書、文献の丸写しは禁	
個別のポイントとその理由	
3. 文献 (教科書以外も)	

ケア記録 オモテ面

ケア記録	
グループ:	学籍番号:
氏名:	
4. 結果 (実施内容、患者の反応等事実を記載する)	
5. 評価 (援助の目的の達成状況)	
6. 自己の振り返り※安全・安楽、経済性、自立、倫理の視点を踏まえる	

ケア記録 ウラ面

III-3 発表会

4・5コマ目で発表会を行った。発表会は1会場で行い、場面Aから順に発表し(8分程度/グループ)、その場面の発表が終わったら質疑応答の時間とした。

場面Aでは4グループ全てが臥位での寝衣交換を選択していた。また、患者は点滴中であることから、寝衣交換は点滴をしていない方の腕の袖から脱ぎ、点滴をしている方の腕の袖から着るという原則に基づいて行っていた。お茶をこぼしている様子から防水シート交換を行なっているグループもあった。点滴の扱いに関する授業は未履修のため、クレンメの方向を間違えたり、点滴ボトルを病衣の袖に通す向きを間違えたりすることはあったが、全グループの発表および教員の補足により学生は正しい知識を得ることができた。

場面Bでは4グループ全てが車椅子で洗髪台まで移動し、車椅子に乗車したまま前屈位で行う

洗髪を発表した。臨床現場では、洗髪チェア(美容室にある洗髪チェアと同じもの)を用いた後屈位での洗髪が提供されることが多い。なぜならば、後屈位の方が安楽であるからである。前屈位を選択した理由として、「ネットで調べて、前屈位が紹介されていたので」という回答があったが、1つのグループが振り返りの中で、前屈位の患者の身体的負担に関して考察しており、後屈位の方が安楽であることを発表していた。このことにより、前屈位・後屈位のメリット・デメリットを協同的に学ぶことができた。また、学生は患者の自立性を考え、ブラッシングやドライヤーは介助ではなく、自分で行ってもらおうというケアを実施していた。

場面Cでは、4グループ全てがポータブルトイレに座ったままの陰部洗浄を行っていた。この方法は、学生が持っている教科書には載っていないが、臨床現場ではよく見られる援助技術である。

学生は当初、ベッドに戻ってから陰部洗浄を行う計画を立てていたが、ベッドサイドで実践しようとしたときに、「何か違う」と感じ、試行錯誤しながらこの方法に辿り着いていた。この発表により、クラス全員が、教科書には載っていない技術であっても、原理原則に則り工夫してケアを提供することを学ぶことができた。

IV. 学生の反応

授業後の感想には次のような記載があった。
() 内は著者の補足である。

「今回の患者さんについては（今まであった）言葉での具体的な説明はなく、自分たちで考えて状況を把握する必要があった。今までの演習では設定の説明等が（文章で）あったため、（写真から患者さんの状況を想像してケアを考えるのは）初めてのことで難しく感じた」と視覚情報のみで状況を把握することの難しさを実感していた。また、「写真を見ただけではわかりにくい部分もたくさんあったけど、どのようにしたら患者さんに爽快感を与えられ、負担をできるだけ減らすことができるのかをしっかりと考えながら行うことができたので良かったです」と写真で得られた情報から最適な看護を導き出そうと主体的に考えようとする姿勢がみられた。さらに、「臥床患者さんの寝衣交換は授業で行いましたが、点滴をした患者さんは初めてで、また、点滴をしている時の留意点などは習っていないので、調べ学習が大変でした。私たちのグループでは、点滴をしている場合の注意点ばかり気を付けていましたが、他のグループでは患者さんの自立の観点などこれまでの演習で培った視点も取り入れており、勉強になりました」と普段の画一的な演習とは異なり、グループ間で焦点を当てる場所、ケアに際して大切にしたいことによってケアの方法に違いが生まれることを体感することで学びが深まっていた。

V. まとめ

場面の様子を文字で示すと次のようになる。

場面 A：「出雲さんはベッド上安静の患者さん

です。お茶をこぼしてしまい、寝衣を濡らしてしまいました。出雲さんは左上肢に点滴をしています。出雲さんの寝衣交換を行なってください」。場面 B：「川跡さんは頭皮の掻痒感を訴えています。川跡さんはリハビリ期にあり、車椅子で移動しています。洗髪台での洗髪を行なってください」。場面 C：「鳶巣さんは便意があり、ポータブルトイレに座りましたが、すでにパッド内に便失禁がありました。便は泥状で、臀部にも便がついています。鳶巣さんの陰部ケアを行い、ベッド上に臥床させてください」。

しかし、臨床現場でこのように患者の説明をしてくれることはなく、学生は患者の状態を見て、何のケアをどのように行うのか判断しなくてはならない。今回、患者の状態を文字ではなく、写真を用いて学生に提示し、患者の状態を想像しながらケアを考える演習を行なった。学生は、患者と患者の周囲を「よく」見て患者の状態を判断し、ケア計画を立案できていた。また、写真を用いることで、患者に没入でき、患者中心のケア計画を考えることができていた。発表会では、仲間の異なる視点を得て、さらに深い学びへつなげることができていた。

VI. 今後の課題

今回、問3（外挿）回答は、限定的な回答となってしまった。今後、回答に多様性が見られるようなビジュアルテキストの工夫が必要である。また、本授業がどのように実習に活かされているのか、評価が必要である。

引用・参考文献

日本看護科学学会. 看護学学術用語検討委員会 n.d. JANSpedia- 看護学を構成する重要な用語集 -. 看護技術. <https://scientific-nursing-terminology.org/terms/nursing-art/> (2024 年 4 月 22 日閲覧)

鹿内信善 2015 『協同学習ツールのつくり方 いかし方—看図アプローチで育てる学びの力

一』 ナカニシヤ出版

鹿内信善 2023 「看図アプローチの可能性を
拓くー特集号を編集してー」 『協同と教育』
18 pp.31-34

倫理的配慮及び利益相反

個人の感想の引用には学生の許可を得た。写真の人物にはモザイク処理をして使用する旨、許可を得た。開示すべき COI はない。

その他

本実践報告の内容は日本協同教育学会第 19 回大会の発表内容に加筆修正を行なったものである。

謝 辞

私（第 1 筆者）の新たな方法での演習の挑戦を支えてくださった、本学基礎看護学領域の先生方に感謝申し上げます。

2024 年 9 月 22 日 受付

2024 年 10 月 17 日 査読終了受理